

## 2024年度明治大学教育会研究大会 分科会概要

### 第1分科会

#### ポストGIGAスクール時代における外国語教育のあり方 ―コミュニケーションの本質とは?―

池田 勝久 先生（文部科学省初等中等教育局）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

文部科学省は2019年に全国の児童・生徒に1人1台のコンピューターと高速ネットワークを整備するGIGAスクール構想を始めた。当初は5年間で進める計画であったが、新型コロナウイルスの影響により前倒しされ、2021年度には一人一台一人一台教育用端末の整備がほぼ完了した。本年度からはGIGAスクール構想第2ステージが始まっているが、これまでのGIGAスクール構想の成果と今後の方向性を確認する。

次に、GIGAスクール構想の中でのデジタル教科書の役割を確認する中で、学習指導要領改訂のキラーコンテンツと成りうることを「令和の日本型学校教育」「個別最適な学び」「協働的な学び」といったキーワードを使って説明する。

最後に、学習者用デジタル教科書を外国語へ優先的に無償給与している背景を伝え、これから求められる外国語教育のあり方について提案する。その際、機械翻訳や生成AIなどのテクノロジーとどう向き合っていけばよいのか、これからの外国語教育における教師に求められる資質・能力について議論していきたい。

### 第2分科会

#### これからの人材育成で目指すものと女性管理職としての働き方 ～地方の高校現場から～

藤田 純子 先生（新潟県立長岡大手高等学校 副校長）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

令和の日本型学校教育」を目指して、地方の県立高等学校でも様々な新しい取り組みが始まっている。今、高校現場では「探究活動」を

いかに取り入れてどのように進めていくかが大きなテーマとなっており、そのことが各学校の特色化を推進し、学校の魅力を高める要素となっている。加えて、探究活動という新しい学びは、多様な人材を求める大学入試改革の動きや世界で活躍する人材を求める日本社会の動きにも大きくつながっている。VUCAの時代を生き抜く人材の育成を担う高校現場での取り組みや課題を中心に、新潟県高等学校副校長・教頭協会 大学入試専門委員会 委員長として新潟県内の大学等進学の現状把握やデータ集約などに携わっていることから地方の教育現場が抱える課題についても触れていきたい。

また、自分自身、管理職となって10年目となる。女性の家事労働負担の比率がまだ大きい社会の中で、仕事を続けていくには努力が必要であり、働き方や労働時間も家庭の状況に大きく左右されるという事実を実感してきた。私自身も、3人の子育てを経験し教諭時代を過ごし、1歳になったばかりの子どもを抱えて教頭選考に臨んだ。管理職になってからも、両親の介護など様々なライフステージを経験し、今日に至る。10年前と比較し、格段に周囲の状況、特に「人々の意識は変わった」と実感する。自分自身を振り返りながら、教育現場でのジェンダーを超えたこれからのリーダー像や働き方について伝えていきたい。

### 第3分科会

#### 子供たちに「お金」をどう教えるか？

##### ～人生100年時代を生き抜くために～

高橋 勝也 先生（名古屋経済大学法学部）

井波 祐二 先生（新潟県佐渡市立佐和田中学校）

小田 和也 先生（東京都立豊多摩高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

ある海外の研究では、2007年に日本で生まれた子供の半数が107歳より長く生きると推計されており、日本は健康寿命が世界一の長寿社会を迎えている。100年という長期間を充実したものにするには、学校から始まる生涯にわたる学びが重要になる。政府は2022年11月に資産所得倍増プランを公表し、「安定的な資産形成の重要性を浸透させていくための金融経済教育の充実」という柱を掲げると、2024年4月にその中核を担う金融経済教育推進機構を設置した。同プランでは、これまでの金融経済教育は、金融事業者や業界団体が中心となって進められていたため、生徒などの受け手に抵抗感を生じたと

いう反省を指摘している。本研究では、「時代はどんどん変わるが、自分で考え、行動することの大切さ」「自分の選択は正しいと思える自己肯定感」「自分が本当にやりたいことは何かという自己発見」「自分にしかできないやりがいと社会貢献感」を主役である子供たちに育成することが目的である。中学校・高等学校の現職教員と連携することで、中立性を確保しながら、将来に向かって連続性・一貫性のあるお金の教育（金融経済教育）を開発・発展させ、普及させる使命がある。現代社会におけるニーズの高い研究教育活動になっている。

## 第4分科会

### SSH校におけるカリキュラム開発と授業実践の報告

佐藤 英二 先生（明治大学文学部）

清水 真光 先生（芝浦工業大学柏中学高等学校）

古宇田 大介 先生（芝浦工業大学柏中学高等学校）

植村 悠太郎 先生（芝浦工業大学柏中学高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス＋オンライン

〔発表概要〕

芝浦工業大学柏中学高等学校は2024年度からスーパーサイエンスハイスクール（SSH）Ⅲ期の指定を受け、カリキュラムを変更し、科学的な課題研究を軸とする教育プログラムを目指し、通常の授業の探究化に取り組んでいる。

具体的には、本校が育成したい4つの資質・能力（①研究基礎力・②問題発見力・③問題解決力・④自律的活動力※1）をSSコンピテンシーと定義した上で、授業開発・実践や特別活動を行っている。本発表では、数学Aのカリキュラム開発と授業実践報告を行う。

数学A（SS数学A）の目標は「課題探究に資する能力（事象を数理的に捉え、批判的思考力を用いて仮説を構築し、問題を協働的に粘り強く解決する力）を育てることを目指す。また未知との遭遇を通じた好奇心の醸成にも重きを置く。」である。

既存の数学Aに加えて、数学Iや中学既習分野との繋がりを考えて取り扱う。他教科も含めた幅広い内容における数学的活動を行う。

現在は、ハノイの塔や立方体の展開図を題材に授業実践を行った。今後様々なコンテンツを実践していく予定である。

※1 SS コンピテンシーについては、さらに以下に細分化した能力として定義した。

- ① 研究基礎力・・・(1)教科の知識・技能 (2)教科横断的な知識・技能 (3)手続き的知識
- ② 問題発見力・・・(1)仮説構築力 (2)批判的思考力 (3)メタ認知能力
- ③ 問題解決力・・・(1)協働する力 (2)表現力 (3)情報活用能力
- ④ 自律的活動力・・・(1)未知への好奇心 (2)粘り強さ (3)社会に開かれた姿勢

## 第5分科会

### 「学び」と「遊び」はつながるの？—マインクラフトで実現する“理想の世界”—

田中 則仁 先生（日本学園中学高等学校）  
小野塚 美保 先生（日本学園中学高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

一昨年私たちは、ハイ・テック・ハイでの研究成果をもとに、「歴史総合」の授業のPBL化について、また昨年度は、そこに「個」を強くする博物館としての明治大学博物館を融合させた PBL を設計し、ともに概要を発表しました。

しかしその結果、様々な弱点や問題点も浮かび上がってきました。

そこで浮き彫りになったのは、理科学的なプロジェクトは実験と検証が可能であるが、社会科学的な「問い」に関してはそれが難しいこと、プロジェクトのルーチン化に伴い、探究活動に対するモチベーションが、またPOL（最終プレゼンテーション）を聞くオーディエンスのモチベーションもまた低減していくことなど、より本質的な問題でした。

そこで今年度私たちは、それを解決するために、PBLにエデュテイメント、すなわち「学びと遊びの接続」の視点を融合させ、今までの研究成果をベースに、EQ（本質的な問い）の探究の手段としてシリアスゲーム、すなわち「社会問題を解決するためのゲーム」を用いること

を試みました。そしてそのためのシリアスゲームとして、マインクラフト教育版を用いることにしました。現実社会における諸問題をEQに昇華させ、その解答をVR（仮想現実）の世界に再現させ、様々な問題が解決された世界、いわば“ヴァーチャルな理想の世界”を作成することを試みました。

そしてPOLのオーディエンスを、“ヴァーチャルな理想の世界”へのパーティシパント（参加者）に転換し、シリアスゲームにおける問題解決的な体験（EQの解答への“チュートリアル”）を通じて、EQ解決への（ワールド作成者との）共感的な深い思考へと導くことを目指しました。

〈Key word〉

PBL（プロジェクトベースドラーニング） ICT Edutainment（エデュテイメント）

Gamification（ゲーミフィケーション） STEAM教育 SOCIETY5.0  
シリアスゲーム

## 第6分科会

### 新しい教師教育の可能性：校種・大学の壁を超えて

津田 ひろみ 先生（神奈川大学、武蔵大学）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

国際日本学部では、自律した学習者の育成を目指して「コミュニケーション」の一形態である協働学習を授業に取り入れ、問題を多角的に捉え深く考える活動を重視してきました。しかし、教室での協働学習はすでに広く行われていることと思います。ですから、そろそろ新たな教師教育の道を探る時期なのではないでしょうか。

ひとつの試みとして、昨年度より神奈川のM中学校と協働し、夏休みと冬休みの前に複数の大学の学生たちによる出前授業を行っています。昨年度は英語科教育法の有志とT女子大学の学生さんが中学2年生の補習授業に参加し、今年度は本学3年生とM大学の院生さんが中学3年生の補習授業に挑戦しました。指導案の作成から当日の運営まで学生自身が協働で取り組んだ本活動は、学生たちにとっても中学生にとってもwin-winの結果をもたらしました。その様

子とアンケート結果を学生達の声も交えてお伝えしようと思います。

この活動はほんの一例ですが、学年や学部、さらに大学や校種の壁をも越えた協働による本活動の参加者は20名に達しました。新しい教師教育の可能性について皆さんと検討したいと思います。

## 第7分科会

### 新人教員が、新校立ち上げに携わって

犬塚 竜司 先生（埼玉県立飯能高等学校）

〔発表場所〕 明治大学駿河台キャンパス

〔発表概要〕

2021年3月に大学を卒業し、初任者として赴任し現在4年目です。赴任した学校が合併し新校立ち上げとなりました。新たな学校のルールづくりや取り組みを間近で見つつ、自分自身は生徒募集という立場で、合併前～合併後の今に至るまで、さまざまな取り組みをしています。

また、現在は3年生の担任をしています。卒業後の進路が大学、専門学校、短大、就職と多岐にわたる学校に勤めるにあたって、どのように部活動や教科指導、進路指導を行っているのか、そしてその中で、教員としての成長や悩んだこと、力を入れそして発揮できたことなどを発表したいと思います。

現職の教員方や教員を志す学生はもちろん、「教員免許は取得したいけど、教員になるかは分からない、迷っている」という学生にも、新人教員として感じてきたことをお伝えしたいと思います。

以 上